

第9回 「子どもに伝える宗教研修」 2017年8月21日(月)

柴田 潔神父 (小さき花幼稚園・周南小さき花幼稚園園長) 9:45~10:30

参考に 『こどものおいのり』 影山 あきこ シスター著

かみさま おはようございます。 きょうも わたしといっしょに いて ください。
わたしが ころでも からだでも よいことが できるように かみさま ちからを
わけてください。 「神様はいつも一緒」の歌

かみさま わたしのころを マリアさまのような ころにしてください。
だれにでも やさしいこどもに がまんでできるこどもに
わたしも になりたいのです。

かみさま せかいじゅうのおとうさん おかあさんを おまもりください。
せかいじゅうの こどもたちが みんなしあわせになれますように。

わたしたちは ごはんも おいしいおやつもたべられます。 かみさま ありがとうございます。
たべものがなくて くるしんでいる ともだちに みんながじぶんのものをわけて あげますよ
うに。

あおいそらも きれいなおはなも おおきいきや ちいさいくさも みんなかみさまからのプレ
ゼント。 たいようも つきも ほしも あめや かぜも やっぱりかみさまからのプレゼント。
ありがとう。 「ありがとう神様」の歌

おにわにとんでくる ことりたちや はやしのりすや やまのウサギたちに だれがたべものを
あげるのですか。 きっとそれは やさしいかみさま。 ね、そうでしょう。 かみさま。

かみさま わたしは ときどき わがままになります。 わたしのものを きょうだいや おとも
だちに わけてあげなかったり……。 おかあさんをこまらせたり……。 ごめんなさい。

せかいのなかから せんそうがなくなりますように。 かみさま どうぞ みんなのわがままや
よくばりなころを なおしてください。

かみさま びょうきでくるしんでいるひとや かなしんでいるひとのことを しっぺいらっしや
るでしょう。 どうぞみんなが げんきになって うれしいひが きますように。

きょうも べんきょうしたり あそんだりたのしいいちにちでした。

かみさま どうぞ よるのあいだにも わたしといっしょにいてください。 おやすみなさい。

「神様はいつも一緒」の歌

「祈り」は神様とのやり取り。「感謝＝ありがたいの気持ち」「賛美＝神様は素晴らしい方」「願い：どうか～なりますように、共にいてください」「お詫び：神様ごめんなさい」

“主の祈り”には絵本や歌には表しきれない内容があるように思います。
それを伝える難しさとは？

・弟子がイエス様に「教えてください」とお願いした祈り（ルカ 11：1～4）。

イエス様が「異邦人のように祈っていてはダメだ」と教えた祈り（マタイ 6：5～13）。

→イエス様が園児さんに教えた祈りではない。弟子たちと園児さんでは違いがあります。

・“主の祈り”は、イエス様の十字架と復活と切り離せません。

→十字架と復活を園児さんに伝えるのは難しい。例年、復活祭は年度の切れ目なので幼稚園で紹介しにくい。

・イエス様の時代は、外国からの支配、飢餓、貧困にあえいでいました。今の平和で物に溢れた時代と違いがあります。

このような難しさを抱えての今日の話

（まず先生たちに理解してもらって、あとは先生たちの工夫で伝えていただきたい）

主の祈りは「呼びかけ：ねえ神様」と「7つの願い：どうか～なりますように」でできています。

（呼びかけ） 天におられるわたしたちの父よ （①～⑦の7つの願い ～ように ～下さい）

①み名が聖とされますように ②み国がきますように ③み心が天に行われるとおり 地でも行われますように ④わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください ⑤わたしたちの罪をおゆるし下さい わたしたちも人をゆるします ⑥わたしたちを誘惑に陥らせず ⑦悪からお救い下さい

呼びかけ→神様のこと①～③→私たちのこと④～⑦

今回のお話の順番 呼びかけ→私たちのこと④～⑦→神様のこと①～③

呼びかけ 「アッバ、父よ」とイエスは呼びかけています 「ねえねえ パパ お願い！」

親しい、信頼、安心もてる・・・そういう方（父）に向かって呼びかける。

天におられる

昔は、「天」の空の上に神様がおられ、空から「地」を見ておられた、と考えていました。イエス様の時代、残念ながら「地」には、戦争や貧しさがあふれていました。人間は、ありんこのように小

さい存在で「地」であえいでいました。その「地」から「天におられるわたしたちの父よ。どうかわたしたちを助けてください。」と必死で叫んでいるイメージを思い浮かべましょう。

*主の祈りは「天」と「地」が大きなテーマです。「天」と「地」は正反対なところもあれば、一致しているところもあります。

*最近「天」と「地」について考えさせられた記事。「青い空と1つになって「母なる人」へと「地」は原爆投下の悲しみに溢れていますが、「地（私のからだ）」は母親の愛に包まれています。今日、わたしたちも「母なる人」になれるよう、青く透きとおった「天」を仰ぎます。

・主の祈りは、その「天」に向かって、呼びかけます。「天」は雨を降らせる「お空」ではなく信頼できる「神様」のおられるところです。

Q. 「天」に、どのようなイメージを持ちますか？ 子どもたちはどのようなイメージを描くでしょう？

わたしたちの父よ

自分だけではなく、わたしたちみんなのお父さん・神様。でも、つつい自分だけのお父さん（神様）と思いがち。神様は、世界中みんなの幸せを望んでおられます。

「父よ」「父よ」「お父さん」「お父さん」と熱心に呼びかけると、

①親しみをこめて素直に話せる気持ち。②神様から自分は大事なんだ、という自己肯定感。③辛い時も支えられている気持ち・・・が湧いてきませんか？

「私たちの父よ」の呼びかけは、それほど重要なので、主の祈りの最初におかれています。

Q. 「天におられる私たちの父よ」「天におられる私たちの父よ」の呼びかけを、何度も何度も繰り返してみてください。保育しながら、掃除しながら、車を運転しながら、料理をしながら、片付けながら、お風呂に入りながら、ベッドに入って・・・、ペットの散歩をしながら・・・どんな気持ちが浮かんでくるでしょう？

・子どもたちにも「天におられる私たちの父よ」「天におられる私たちの父よ」を繰り返して唱えるよう指導してみてください。どんな気持ちになったか聞いてみましょう。「天におられる私たちの父」のイメージをこどもたちの心に定着させましょう・

願い：私たちのこと ④～⑦

④ わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください

・わたしが力を入れて祈る箇所

日ごとの糧、は食べ物だけを意味しません。安心して暮らせること、人間らしい生活ができること、将来に希望が持てること、真理を追求できる自由があること・・・

難民支援の募金での園児さんのお祈り

「こまっているおともだちが あぶなくにくにから あぶなくにくにに もどれますように」

難民にとっての糧：安心できる国、親しんだ文化と故郷、家族、教育、仕事、友達、未来への夢、自由、希望、人間の尊厳・・・

自然災害に遭われた方にとっての糧：安心、休む場所、睡眠、食べる物、着る物、仕事、展望・・・

抱える問題によって願う糧は異なります：家族の分裂、不慮の事故、病気、老い・・・

その糧、今日の糧のために祈ります。

「食べるものがなくて困っているおともだち・・・」 具体的にどこにいるでしょう？ 園児さんに伝えたり・考えるように指導しましょう。

⑤ わたしたちの罪（負い目）をおゆるし下さい。わたしたちも人をゆるします。

<新約聖書から>

（イエスは十字架上で）「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているか知らないのです。」
人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。（ルカ 23：34）

「わたしたちの罪（負い目）をお赦してください。わたしたちも人を赦します」という願いは、きびしい苦痛を与えられ、十字架に付けられているにもかかわらず、口にしたイエスの赦しの言葉とつながっています。

わたしたちの負い目・罪とは？

最悪のケースから神様が守ってくれたこと。もし最悪のケースに至っていたら・・・わたしの悪口・陰口に傷ついた人が自殺していたかもしれません。わたしの運転で命を失う犠牲者が出ていたかもしれません。イエス様は、最悪のケースからわたしたちを守り、またその負い目を背負って下さっています。

わたしたちは多くの出来事を、また失望させる多くの人々を赦し合わなければなりません。期待に答えてくれなかったり、困った時に一人きりにしておいた人々を「赦す」ということです。わたしたちは心に平和を作るために、絶えず「和解」を表現しなければなりません。「赦し」は神から

の祝福で、キリスト教特有の賜物です。「赦し」は、それがなくては人間らしい生活が考えられない神からの祝福です。 参考文献 『主の祈り ～現代的視点から』 カルロ・マリア・マルティニーニ著 教友社

<新約聖書から>

「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したら、何回赦すべきですか。7回までですか。」「7回どころではなく7の70倍までも赦しなさい」(マタイ 18:21~22)

1日は何分あるか計算すると(1440分)「7の70倍まで赦す(490回)」というのは「3分ごとに赦すこと」を意味することになります。ですから、お互いの赦しは毎日の生活そのものになります。

わたしたちの赦しがないと幼稚園に、家族に、友人との間に平和は来ません。しかし、大人が赦すのはとても難しいものです。どうしても、自分が正しい理由が頭に浮かびます。

赦すためには、寛大さ・度量が必要です。人の赦し方を身につけたり、人からの赦しを受け入れる心の広さであったり・・・その「寛大さを与えてください」と神様に願います。

Q.「わたしたちの罪(負い目)をお赦してください。わたしたちも人を赦します」と唱える時、何が心に浮かびますか？

⑥ わたしたちを誘惑に陥らせず 悪からお救い下さい

「悪」の最たるもの：戦争は全てを台無しにします。命、家族、住む場所、家族、教育・・・

「誘惑」：戦争してもいいんじゃないか？ 戦争してもいい理由を挙げます。

「誘惑」と「悪」は結びついています。いきなり「悪」が力を発揮することはありません。

個人的な「誘惑」→「悪」

- ・意地悪、陰口、不親切、投げやりな態度、仲直りを先延ばしにする・・・
- ・悩ませたり、前進させないようにして悪い方へ連れていきます。落胆させて、み国の実現を妨害します。
- ・毎日の生活で頭の中をいっぱいにして、困っている人への関心を奪います。(個人主義)

集団的な「誘惑」→「悪」

金儲け主義、原発問題、テロ、人種差別・民族紛争・搾取・圧政・・・これらの「誘惑」「悪」から完全に逃れることはできません。「誘惑」と「悪」は私たちの生活に入り込んでいます。

「誘惑」は「悪」に通じています。「誘惑」に陥ると「悪」は良心を引き裂いて平和を奪い人間性

を低めます。絶望に至り薬物などの中毒に走らせることもあります。私たちが願うのはこれらの「悪」からの解放です。人生に終止符を打ちたいとさえ望ませる「悪」との決別です。

もっとも深刻な「悪」は、試みのさなかで負けること、「信仰」と「希望」を失うこと、自分に絶望することです。わたしたちが救いを求めるのはこの運命からです。悪い敵からイエスを守ったように、おん父はわたしたちをも守られます。希望のうちに勝利するように導かれます。この希望をもって「わたしたちを悪からお救いください」とおん父に願います。

参考文献 『主の祈り ～現代的視点から』 カルロ・マリア・マルティーニ著 教友社

<子どもたちへの誘惑>

- ・本当は自分が悪いこと知ってたけど「ごめんね」が言えなかった。
- ・本当は見たけど、知らないことにした。
- ・おともだちが言い返せないのを知ってて悪口言った。

Q. 自分に、クラスに、幼稚園に、取り巻く社会にどのような「誘惑」「悪」が働いていると感じますか？ 神様に助けを願いましょう。

神様のこと ①～③

① み名が聖とされますように

当時の人々は、自分たちの神様がいらして、戦争の時でも、自分たちの神様の名を呼ぶと力を発揮してくれると信じていました。でも実際は、神様の名が崇められることは少なかった。神様の思い通りにはならないことばかりだった。飢饉や強い国からいじめられる、圧政が続く。そんなどん底から「神様！」って叫んでいた祈り。

人間でも、名前と呼ばれるとうれしい。神様も同じでしょう。名前を呼んでくれると力を発揮できる。神様のお名前通りに神様の力がわたしたちに働きますように、という願い。

<旧約聖書から>

ほめよ、神に仕える者よ。 神の名をほめたたえよ。 神の名に賛美。 今よりとこしえに。日の上るところから沈むところまで、神の名はたたえられる。(詩篇 113:1~3)

神が与えてくださった すべてののめぐみに、私はどのようにこたえようか。 救いの杯をささげ、神の名を呼び求めよう。(詩篇 116:12~13)

Q. 嬉しい時、苦しい時に、神様に話しかけてみましょう。神様が、名前を呼ばれて喜んでいる感覚をつかみましょう。

② 御国（神の国）が来ますように。

<新約聖書から>

「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。」（マタイ7:21）

「ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」（ルカ17:20~21）

「み国（神の国）が来ますように」は、イエス様が心に秘めていた願いです。「み国」はイエス様の口から少なくとも90回も語られています。このことからイエス様が「み国」にどれほど憧れていたかがわかります。

どうしたら「み国」は訪れるのでしょうか？

- ・希望を持って日ごとの糧を待つことで実現します。
- ・父なる神様の赦しを学び、人を赦すことで実現します。
- ・自暴自棄や自己嫌悪に陥る誘惑にさらされても、父なる神様が支えてくださる確信によって実現します。
- ・主の祈りの全ての願いが、「み国」の実現とつながっています。
- ・「み国」は、遠いようですが原爆投下のような悲劇に見舞われると、心の底から願います。そのような事態が起きないように「み国」を願いましょう。

Q. 「み国」が実現して欲しいなあ、「み国」が実現したなあ、と感じるのはどんな時でしょう？

③ 御心が天に行われる通り、地にも行われますように。

<新約聖書から>

ゲッセマの園でのイエス様の祈り（イエス様の父なる神様への祈りの中で特に大事）

一同がゲッセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「わたしが祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスは、ひどく恐れてもだえ始め、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかり悲しんでいる。ここを離れず、目を覚ましていなさい」。少し進んで行って地面にひれ伏し、できることならこの苦しみの時が自分から去

るようにと祈り、こう言われた。「アッバ父よ (イエス様は父なる神様に親しみを込めて呼びかけます)、あなたは何でもおできになります (父なる神様への信頼)。この杯 (イエス様が受けられる十字架) をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」
(マルコ 14 : 32~36)

イエス様はなぜ十字架を受けられるの？

- ・父なる神様のみ心で、イエス様は、“貧しい”馬小屋で人々を“豊か”にするために誕生します。
- ・イエス様は、戦争・圧政・飢餓のある“汚れた世界”に入って、自分が汚れを引き受けて人々を“^{きよく}聖く”されました。たくさんの病人を癒したり、苦しんでいる人たちを助けました。
- ・けれども、ファリサイ派などの宗教指導者はイエス様を妬み、亡き者にしようとしてしました。父なる神様は、自分の子のイエス様に、その人たちの“悪い心”を引き受けさせること (十字架上で殺される) で、“善”が“悪”より強いことを示そうとしてしました。(父なる神様のみ心)
- ・イエス様は、私たちの“悪い心”を全て引き受けて、しかも罪人と誤解されて十字架にかけられました。“死の暗闇”に入られました。(イエス様のみ心を受けました)
- ・しかし、父なる神様は、イエス様を復活させて、“死”から“終わりのない命”へと導きました。人類に無限の赦しを与え“悪”“罪”“死”の鎖から解放なさいました。(父なる神様のみ心)

キリスト教の核心部分です

<み心は小さな者の救い>

み心は、大きな計画だけでなく小さな一人にも及びます。99匹の羊を残して1匹の迷える羊のたとえを語った後「そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」 (マタイ 18 : 14) と述べています。神のみ心は、小さな者たちの救いです。

*放蕩息子のたとえ話 (ルカ 15:11~32) も同様

み心=人間の思いを超えた神様のお考え

- ・み心が実現されるかは、私たちにかかっています。み心は漠然としているようで具体的。
- ・み心を引き受けるには、葛藤があります。自分はしたくない気持ちがあるけど、神様のために。

<例>

- ・マリア様の受胎告知：戸惑いの後に「お言葉通りになりますように」(ルカ 1 : 38)
- ・徴税人ザアカイ 「あなたの家に泊まりたい」→「私は財産の半分を貧しい人々に施します」→

「今日、救いがこの家に訪れた」 (ルカ 19 : 1~10)

・マザーテレサ インドの恵まれた学校の先生をしていました。「もっと困っているおともだちのために」との神様からの呼びかけ

・「行って、あなたも同じようにしなさい」 良きサマリア人の例えの結び (ルカ 10 : 33~37)

東北・熊本・九州豪雨のボランティア：遠いしお金も時間もかかるけど行く

<子どもたちがみ心を行えるか？ 良心に従えるか？>

・自分では「~した方がいい」と思ったけど、誰もしなかったからしなかった。

・先生に言われてないからしなかった。

・お母さんはしなくていい、と言ったからお母さんに従った。

Q. 今、感じている「み心」は、なんでしょう？ 子どもたちが実現するためにどんな手伝いができるでしょう？

まとめとお願い 主の祈りは、カトリック幼稚園のビジョンです。

・これだけ中身が詰まった祈りなので、集中して唱えるのが難しいです。意味を考えゆっくり唱えましょう。

・主の祈りの7つの願いを分けて朝礼でお祈りください。個人として幼稚園として何が必要か？ 心の中に聞いてみてください。 日々の糧か？ ゆるしか？ 悪からの解放か？

・「み旨」を意識してください。先生たちへの、幼稚園へ神様への願い、を感じ取ってください。

・少し遠いと感じても「み国」のためにも祈ってください。「悪」と「誘惑」に打ち勝たないと世の中は悪い方に進んでしまいます。それを食い止めるためにも「み国」のために祈りましょう。

・先生たち祈りが、子どもたちに伝わっていきます。そして、子どもたちを通して将来の日本に、神の国が実現していきます。

エプロンシアターの台本の例 (先生たちも考えてみてください)

<主の祈りの導入>

「ねえねえ、“主の祈り” って知ってる？」

「うん、覚えてるよ」

「覚えてるだけじゃなくて意味よ」

「うん、知ってるよ。なんでも聞いて」

「じゃ、教えて。天におられるって、神様は雲の上にいらっしゃるの？」

「うん、嘘をついたら舌を抜いてしまう、えんまだいおうさまと一緒にいるんだよ」

「あれっ？ 違うわ。 神様は、素晴らしいものを全部創られた方よ。綺麗な自然も・・・あっくんの大好きなカブトムシも神様が創られたのよ。嘘をついたら舌を抜いてしまう閻魔大王様とは全然違うわ」

「そうだね、大好きなカブトムシも神様が創られたんだね。」

「そう、でも素晴らしいものを創られただけじゃないわ」

「どういうこと？」

「困っている時も、嬉しい時も、いつもそばにいて、守ってくださるの。私たちみんな、世界中みんなのお父様よ！」

「そんな優しい神様に向かって“天におられる私たちの父よ”って呼びかけるんだね。」

「あっくん、すごい！ もっと“主の祈り”のこと知りたくなっちゃった」